

会 (ICPD + 5) 以来, HIV / AIDS と性感染症 (Sexually transmitted infections; STI) はリプロダクティブヘルスの一環としても重要な人口問題のテーマのひとつである。

今回, 2000年7月24日から9月29日までの間カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) のエイズ予防研究センター (Center for AIDS Prevention Studies; CAPS) に滞在してきた。高度で革新的な CAPS の経験をわが国の現状に合わせて導入して, 日本の大学生を対象とした HIV / AIDS と STI の疫学と予防の共同研究を実施するための資料収集および計画立案が目的であった。CAPS は, AIDS 症例が世界で最初に発見された地のひとつであるサンフランシスコで長年 HIV / AIDS 予防と研究に携わっていることで知られ, 最先端の知識と経験がある。以前より CAPS では共同研究者を世界各地から同時期に招聘して国際的なワークショップを用意することで国際共同研究や技術移転を促進するようにしている。今回もそのような形式が取られていたため, アメリカだけでなく, アジア, 中南米, アフリカのさまざまな国の現状を学ぶこともでき, また, そのようにして国際共同研究を実行することの有効性についても確認できた。CAPS 以外にも, UCSF の AIDS 研究所 (AIDS Research Institute) やサンフランシスコ市の保健局, 各種 NGO など HIV / AIDS と STI に関する多くの資源へのアクセスが容易な環境であった。

(小松隆一記)

日中少子高齢化問題会議

2000年10月16日から20日, 中華人民共和国上海市において, 中国上海市老齡科学院研究センターならびに日本のエイジング総合研究センター主催による表記のワークショップが開催され, 日本と中国における少子高齢化の現状と問題について, 討議が行われた。セッションは, 第一に, 人口学者による人口学的な少子高齢化のプロセスに関するテーマ, 第二に, 少子高齢化による高齢者の家族形態に関するテーマ, 第三に, 高齢化にともなう社会保障制度の構築に関するテーマ, 第四に, 上海市高齢者生活状況に関するテーマ, そして第五に, 高齢者の生活の社会参加に関するテーマについて討議が行われた。

中国上海市は, 合計特殊出生率が既に0.9と, 中国の一人っ子政策の結果, 少子化現象が進行しており, その結果高齢化が急速に進行する。このような状況下で, 日本と中国の少子高齢化問題に関するワークショップは, 人口学者から社会参加に関わる実務家まで幅広い分野の参加を得て, 熱心な討議が行われた。

(高橋重郷記)

2000年ケトラー講座

「人口と開発 II 開発は人間的で持続可能であり得るか」

ベルギーのルーバン・ラ・ヌーブにあるルーバン・カトリック大学 (Université Catholique de Louvain) 人口研究所とルーバン人口学会は1974年から毎年秋にベルギーが生んだ著名な統計学者・人口学者ケトラー (Adolphe Quetelet) の名を冠した国際シンポジウム, ケトラー講座 (Chaire Quetelet) を開催してきた。2000年は同大学 (前身) の創立575周年記念行事の一環として実施されたため, 例年よりもかなり大規模で, 11月21日 (火) ~ 24日 (金) の4日間にわたって人口研究所の Michel LORIAUX 博士と開発研究所の Jean-Marie WAUTELET 博士を中心とする組織委員会により「人口と開発 II 開発は人間的で持続可能であり得るか」(Population et développement II. Le développement peut-il être humain et durable?) というテーマのもとで開催された。